

3 進学先選択のポイント

【高校選択の基本的な考え方】

条件を考えて選ぶ

保護者と生徒が相談して、まず学校の種別を決め、その後、特定の志望校を決めます。もし親と子の考え方が違う場合はよく話し合ってお互いの考えを理解しあい、最終的には一致するようにならなければなりません。

なるべく1校だけに限定しないこと

高校進学には選抜試験があります。必ず合格するという保証はありません。1校だけにするとときには、担任等とよく相談して、志望校を決定していきましょう。

担任との協力

自分に合った学校を選ぶために、担任とよく相談し、様々な条件を考慮し、総合的に志望校を決定していきましょう。

(1) 自分の意志で選ぶこと

仲の良い友達が希望しているから、学校名を聞いて良いと思ったから、先輩が行っているから等、安易な理由やうわさに流されてはいけません。また、間際になってあわてて決め、将来に悔いを残すような事にならないようにしましょう。自分自身の適性・将来の希望等を十分に考え、担任の先生や保護者の方と相談し、様々な角度から志望校について調べ、高校を選ぶことが大切です。

(2) 学力とともに自分に合った学校を選ぶこと

中学時代は常に成績上位にいた生徒が高校では下位になってしまい、学習だけではなく高校生活全体に意欲を失ってしまうケースがあります。逆に、高校へ入学後トップクラスとなり、意欲的に高校生活を送るケースもあります。単に学力だけではなく、入学したい高校の校風を理解し自分に合った高校を選ぶことを十分考慮しなければなりません。さらに将来、進学を考える時、公立を目指すのか、大学付属の私立を目指すのか。又、共学・男子校・女子校の選択なども考慮しましょう。

(3) 高校の教育内容を知る<チェックポイント>

① 校風・教育の特色(特に私立は様々な特色を出しています)

伝統 教育方針 宗教教育 進学・就職指導 等

② 教育課程(カリキュラム)

- ・公立の普通科はほぼ同一の内容ですが、近年は普通科の中に、体育健康コース・情報処理コースなどのコース制を導入し、時間数を調整して特色を出している学校があります。
- ・私立高校には学校により、カリキュラムが異なります。また、中高一貫教育の学校では、特色のあるカリキュラムの学校もあります。パンフレットやホームページ等で必ず確認しましょう。
- ・宗教・武道・作法等、公立高校では行わない授業をする私立高校もあります。
- ・職業科(専門課程)に進む場合は、専門的な教科が入ってくるため、公立・私立を問わず十分調べるようにしましょう。

③ 施設・環境

- ・校舎、教室、特別教室、食堂、グラウンド、体育館等の施設は、学校によりかなり異なります。
- ・1クラスの定員は、学校によって違います。少人数を実施している学校もあります。
- ・学校周辺の環境も大切です。

④ 特別活動

充実した高校生活を送るためには、生徒会活動・部活動など、自分が参加したいと思っているものがどのように活動しているか調べましょう。特に部活動で技能を伸ばしたい人は、施設・指導者・活動状況・実績・費用なども知っておいた方が良いでしょう。

⑤ 卒業生の進路

高校によって、卒業生の進路状況は違います。また、高校卒業後の進路についても十分調べましょう。就職状況はどうか、自分の希望する大学にどのくらい進学しているか、指定校推薦枠はあるか、現役大学合格者の割合等、高校選択の判断材料の1つにしましょう。

(4) 通学について

常盤平駅、五香駅からは、新京成線で習志野方面、新鎌ヶ谷駅で東武アーバンパークライン、八柱駅で武蔵野線に乗り換えて、埼玉・船橋・千葉方面、さらに松戸からは、常磐線で茨城・柏・東京方面など、かなり広い範囲の高校へ通学する事が可能です。しかしながら、混雑の中、通学に時間がかかり、乗換が多かったりすると、負担になることがあります。また、交通費が多額になることもあります。それらのことも考えて志望校を選ぶようにしましょう。

(5) 高校への受験料・学費について

私立高校に比べ、公立高校の授業料等は安いです。ただし、カリキュラムの内容や、進路指導の細やかさ、利用できる施設、交通費や、塾・予備校の費用などさまざまな要素を含めてトータルに考えていくことが大切です。成績等によって、入学金や授業料を減免する特待生制度が私立高校ではあるので、よく調べる必要があります。

○受験料

公立高校 ⇒ 全日制2,200円 定時制950円

私立高校 ⇒ 20,000円前後

○学費

公立高校 ⇒ 入学金:5,650円 授業料:9,900円/月(年間118,800円)

私立高校 ⇒ 入学金:15万円~50万円 授業料:15,000円~45,000円/月

※公立・私立とも「高等学校就学支援制度」があり、年収910万円未満の家庭で、申請をした家庭に月9,900円が支給(学校に)される。詳細は入学後に高校から連絡があります。

※私立高校では、2020年入学生から、年収590万円未満の家庭に対し県の支援制度が適用され、授業料がほぼ減免される。

※私立高校に合格すると、入学金等を納入しなくてはなりません。第一希望が公立高校だった場合、第1志望校の結果が出るまで納入を待ってくれる学校・待ってくれない学校・一部納入する学校等様々です。また延納手続きが必要な場合があります。期日までに入学金等を納入しないと、合格が取り消されてしまうことがあります。

(6) 第2志望・第3志望高校をよく考えて決めよう

第2志望以下の高校も、3年間満足のいく高校生活を送ること、後悔せずに3年間を過ごすことのできる学校を、真剣に調べ、よく考えて、志望校を決定していくようにする必要があります。

公立高校の場合、出願後に志願変更期間があり、出願状況を見て、最初に出願した高校から、他の高校への志願変更が可能です。倍率だけを見て受検し、合格したのは良いが、その高校についてよく分かっておらず、入学してからその高校が合わないと感じることもあります。公立の受検校を考える際は、複数校を見学、検討しておくことが大事なこととなります。

4 公立高校について

(1) 入学者選抜について

- ・令和3年度入学者選抜より、受検が1回に変更となりました。
- ・公立高校の併願は認められていません。
※転居等で他県公立高校を受検する場合は、決定次第、早急にご連絡ください。
- ・他県を受検することは原則できません。
※松戸市と隣接協定を結んでいる埼玉県(三郷市、吉川市等)の一部公立高校は受検できます。
- ・公立高校と私立高校、国立高校との併願受検は認められています。
- ・普通科は学区制が設けられており、該当学区および隣接学区を受検できます。
- ・専門学科(総合学科を含む)は、県内全域の学校を受検できます。
- ・各校の「選抜・評価方法」は、10月19日(水)から各高校HPで公開されます。
- ・前期・後期選抜のときと同様、「特別入学者選抜」があります。(外国人選抜、海外帰国生徒等)
【外国人選抜】
 - ・外国籍を持ち、入国3年未満の者に受検資格を与えられます。
 - ・英語または日本語の「作文」+「面接」で実施します。学科検査は課しません。
 - ・検査は1日目午後のみ(1日で実施)。
【海外帰国生徒】
 - ・海外在住期間2年以上4年未満 ⇒ 帰国後1年以内の者に受検資格を与えられます。
 - 海外在住期間4年以上 ⇒ 帰国後2年以内の者に受検資格を与えられます。
 - ・国数英3科(英60分・他50分)+ 高校が定める検査を1日目に行う(1日で実施)。